



投資INSIDE-OUT

<投資の裏側>

2023年9月1日

Vol. 259

米国株式、9月は買い場となるのか？ ～語られざる投資の真実(73)～

◆過去データは、夏場は弱含み、年末にかけて上昇を示唆するが…

米国株式の投資格言に「5月に売り逃げろ(Sell in May)」があります。ご存知でしょうか？これには、「9月には戻ることを忘れるな(Remember to come back in September)」という「続き」がありません。実際のところ、5月の売りがベストと言える明確な根拠は無さそうですが、夏休みで市場参加者が減る時期には株価が弱含み易いといった印象があります。

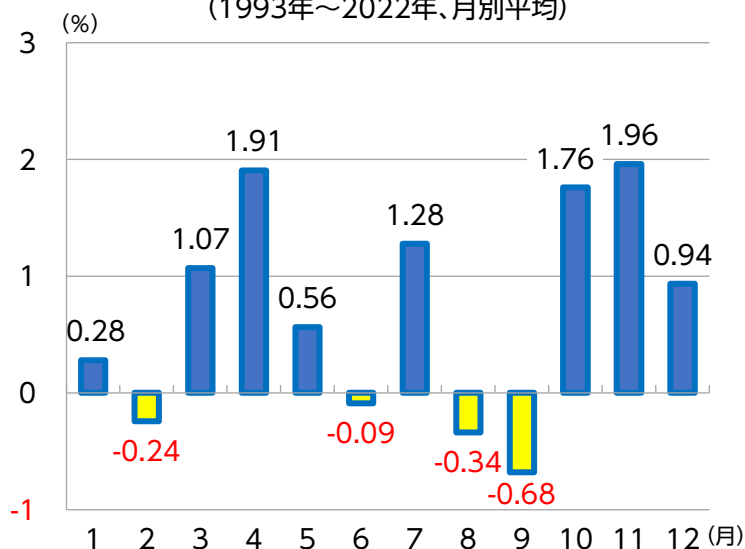
下図は米国S&P500指数の過去30年間の月別成績(騰落率)ですが、9月は最下位、11月が1位、10月が3位となっています。過去データでは四半期の中で「10-12月期」の実績が良いことから、これまでは夏場の「調整局面」が買い場となったケースが多かったのかもしれません。

今年の8月も米国株式は弱含みとなり、同指数は月間で2月以来の下落となりました。4-6月期の企業業績は予想以上に底堅かった一方、米長期金利が4%台で推移し、株価の割高感や先行きの景気への悪影響が意識されました。9月は主要企業の業績発表が少なく、経済指標や金融政策に市場参加者の目が向きそうです。足元では米国の利下げ時期や中立金利*の水準について見方が分かれており、9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)で、2024年末や長期スパンの政策金利について、どのような見通しが示されるのか注目されそうです。

*中立金利:景気への影響が緩和的でも引き締めのでもない、「中立的」とみなされる短期金利の水準

S&P500指数の過去30年月別騰落率

(1993年～2022年、月別平均)



S&P500指数の月別上昇・下落回数

	上昇	下落
1月	17	13
2月	17	13
3月	19	11
4月	23	7
5月	21	9
6月	19	11
7月	18	12
8月	17	13
9月	15	15
10月	20	10
11月	22	8
12月	22	8

9月は上げ下げ、五分五分の結果に

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

米国の企業業績の伸び(前年同期比)は、4-6月期が底で7-9月期からは改善との見方が優勢です。

下がったら買いたいとのムードが強いと「買い場」は来ない可能性も考えられます。(超乾)

【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。